

平成26年7月1日

(第78号)

鵜戸



887-0101

宮崎県日南市宮浦3232

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

制作編集兼発行者

鵜戸神宮社務所

暑中お見舞ひ申し上げます



宮司 本部雅裕

に我が国柄についても書いた(あるいは伝来の書を書き写した)もののやうです。

このうちご生誕については前号に記載してありますので、今回はその後半をご紹介します。

鷺鷥草葺不合の御子をば……神日本磐余彦尊これ神武天皇なり。その後日向国宮崎郡に帝都を立て、五十九年と申す年、東征し給ひて、平らけ賜。大和国橿原に宮作りてをします。即ち橿原に帝と申すこれなり。第一代の帝をば綏靖天皇と申す。第三代帝をば安寧天皇と申す。それより以来代々天皇今に至って天下太平国土安全と御世を治め賜ものなり。

鵜戸神宮の御祭神の御子、神日本磐余彦尊が東遷され第一代神武天皇として我が国を治められたこと。その後連綿と続く皇統。天皇の御徳によつて我が国を治めてこられたこと。などが、当時の一地方の祀職によつて熱く語り継がれてゐるのです。

このやうな、「記紀」に現れてゐない神々のご事績をたづねることも、また大切なことだと存じます。

神話が今もなほ息づく日向国宮崎、鷺鷥草葺不合尊のご生誕の地、常永久に神静まります鵜戸山にどうぞご参拝下さい。(参考『鵜戸さん』その信仰と伝承 鉦脈社)

れのものには、鵜戸山の頂にある吾平山に葬り奉ったことがわかります。

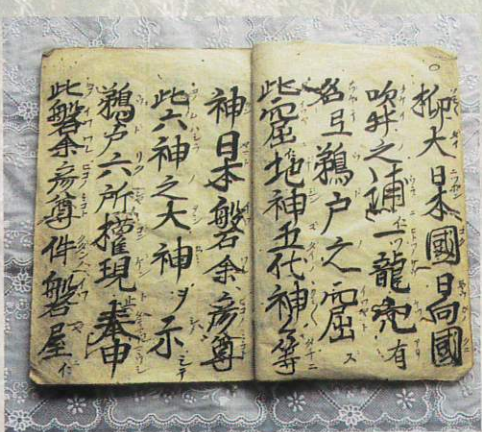
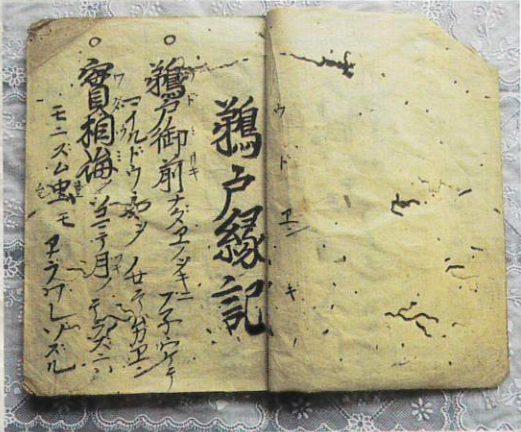
ところが、明治の始め新政府は、日向の神代三山陵(邇邇云命、穗穂出見命、鷺鷥草葺不合の御陵)調査を三島通庸(のちに警視總監に命じてゐます。三島はもちろん薩摩人です。この結果、日向三代の御陵はことごとく鹿児島県内にあるとされ、吾平山も今の鹿屋市吾平町に治定されてしまひました。これより鵜戸山の吾平山は、「御陵」ではなく、「御陵墓参考地」となつて現在に至つてゐます。

また、「記紀」に登場しない「神話」も数多くあります。

ここでは『鵜戸縁記』を紹介いたします。この書の奥書に「天保二年八月朔日 早馬大明神 兼吉 正市 斎宮」とありますから、今から一八三年前の江戸時代天保二年(一八三二)に早馬大明神の祀職二人が、当時の鵜戸大権現の由緒、信仰を広く信者に広めるため、さ

鵜戸縁記

(日南市 瀬尾隆智旧蔵 蛭原ヨシ子氏蔵)



『古事記』では、「波限建鷺鷥草葺不合命、その姨玉依毗売の命を娶りて」と結婚のこと、そして五瀬の命、神倭伊波礼毗古の命など四柱の御子をお生みになったことが記されてゐるだけで、崩御のことは出てきません。『日本書紀』には、「……凡て四の男を生す。久しくましまして彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊、西洲の宮に崩りましぬ。因りて日向の吾平山上陵に葬りまつる。」とあり、未

この度、社報七十六号で紹介しました本部雅裕宮司の著による鵜戸神宮ご由緒本『鵜戸さん』の増補改訂版が出版されました。

初版発刊から一年半経過し、引用の歴史資料を中心に判読不能や、誤記が少なからず判明しました。そこで宮司とご息女が各関係機関に問ひ合はせをするなどして、今回の改訂となりました。

また、江戸時代の貴重な資料「鵜戸縁記」を、日南市在住の蛭原様のご厚意により閲覧と撮影を許可いただき増補となりました。ここには、記紀にはない興味深い記述が豊富にあります。

皆様には、鵜戸神宮の公式ハンドブックとして活用いただき、神話・歴史と今とが繋がるすばらしい物語を、ぜひご一読下さい。



『鵜戸さん-その信仰と伝承-』案内 「増補改訂版」

【取り扱い先】

- ☆鵜戸神宮社務所
- ☆鵜戸神宮本殿お守り所
- 初穂料 1500円
- ☆宮崎県内書店

【発行】
「鉦脈社」(こうみやくしゃ)
(みやざき文庫94)
0985-25-1758



別当宮司先賢慰霊祭
(五月十九日)

例年は儀式殿前広場で開催されるが、前日まで降り続いた雨で会場がぬかるみ、一日に日南市多目的体育館で開催された。今大会は、団体百十二チーム、個人百十三名関係者を含めると千人以上の参加となった。選手は、心技体を極めるべく毎日稽古に打ち込み、当日は成果を披露してゐた。

第六十一回
剣法発祥鵜戸山頭彰剣道大会

二月一日、快晴のなか鵜戸神宮例祭日に併せ、宮崎県内から二十八チーム、百三十二名が参加し、儀式殿前広場で開催された。「四半的」は的までの距離が四間半、矢の長さが四尺半、的の大きさが四寸半ある事からその名があり、当日は参加者全員心地よい汗をかいてゐた。

四半的弓道大会



宮崎県神社庁 庁長 杉田秀清様



本部宮司とご夫人

平成二十六年三月一日付にて、神社本庁より鵜戸神宮本部雅裕宮司が、浄階・神職身分一級を授与され、五月九日に祝ふ会が開催された。九十六名が参集し、植野章一鵜戸神宮責任役員、杉田秀清県神社庁庁長、岩下忠佳神社本庁長老、草場昭司神社本庁長老、川上親昌神社本庁理事、日南市崎田恭平市長に祝辞を頂き、盛会となった。

本部雅裕宮司
浄階・神職身分一級昇進



舞楽 蘭陵王奏舞



献幣使杉田庁長と記念撮影



宮司祝詞奏上

例祭
(二月一日)



参列者玉串拝礼



浦安の舞奏舞

祈年祭
(二月十七日)



鵜戸小中学校3・4年生の田植糸体験



早乙女の田植糸神事



水口奉幣

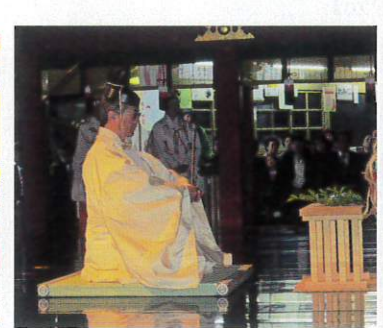
お田植祭
(三月十日)



シャンシャン馬乗馬の指導を受ける新婦さん



豊栄の舞奏舞



宮司玉串拝礼

縁日大祭
(三月二十九日)
シャンシャン馬道中再現・
シャンシャン馬道中唄
(三十日)



五月五日、県内外小中学校の児童生徒をはじめ、幼稚園児、乳幼児六十四名が鵜戸神宮に参集し、三十八回目の太鼓演奏を行いました。

来年も、開催予定してをりますので、参加を希望される方は、社務所へお申し込みください。

いさみ太鼓奉納



神様と出会ふ少年



ライトアップされた洞内

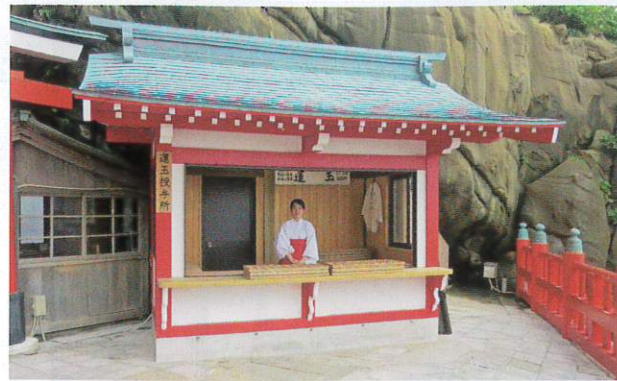


殿内で融合音楽を演奏

四月二十、二十六日の午後七時から鵜戸神宮本殿で、「UIDOOR(ユードア)」融合音楽祭が開催されました。これは、雅楽と洋楽を融合させた音楽に演出を加へてをり、今年で四回目となります。

両日で、約三百二十名の入場者があり、盛況となりました。

第四回「ユードア」奉納音楽祭開催



これまで、テントや洞内授与所で運玉を授与してをりましたが、新たに運玉授与所が完成しました。

『日本書紀』巻第二(神代下)には鵜戸神宮主祭神の日子波瀲武鸕鷀草葺不合尊の御母君豊玉姫が海宮より大亀に乗つて来られたと記されてゐます。その大亀が、亀石になつたと伝承され、男性は左手、女性は右手で願ひを込めてこの亀石のしめ縄めがけて運玉を投げます。見事入りますとその願ひが成就すると云ひ伝へられてゐます。

皆様もご参拝のをりに、神話に触れてみませんか。

運玉授与所新設

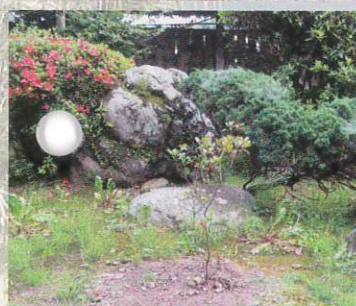
責任役員の清水満雄・久美子ご夫妻から、直径一メートル、長さ一メートル一〇センチ、胴まはり三メートル二〇センチの大きな胴長太鼓を奉納頂きました。

職員朝拝と、祭典、結婚式で使用します。



奉納

川南町林田農園の林田喜昭さまから横、紅花車輪梅、おがたま、椿の苗木約二百株を奉納頂きました。境内各所に植樹します。



新職員紹介



巫女 (たにくち あやか)
谷口 綾香
平成七年四月二十七日生
日南振徳高校卒



巫女 (つきしま りせ)
築島 里沙
平成八年三月八日生
日南振徳高校卒

【抱負】
私の座右の銘は「日進月歩」です。これから指導頂くことが多いと思ひますが、一日でも早く身につけ仕事が出来るやうに頑張りたいと思ひます。また、参拝者と接する際は、言葉遣ひや立ち居振る舞ひに気をつけ、丁寧な対応をしていきたいです。

【抱負】
私の座右の銘は「初心忘るべからず」です。奉職して三カ月が経ちますが、今はまだ先輩方についてゆくのに必死です。早く仕事を覚へ自分から動いていけるやうになりたいと思ひます。今の気持ちを忘れず、常に笑顔と緊張感を忘れずに頑張ります。

敬神婦人会九州大会参加・恵比須神社縁起飾り授与・植栽活動

二月二十六日に、第五十二回九州地区敬神婦人連合会大会が、大分県別府市で開催され、長友会長他

十名が参加しました。前回は宮崎県が当番県で、今回はゆつくりとおもてなしを受け、他県の会員と交流を深めることが出来ました。



一月十日、恵比須神社例祭に併せ、九日と十日の二日間、当神社敬神婦人会

員に授与所勤務を奉仕していただきました。



三月九日、敬神婦人会会員の手植系により、当

神宮の境内地であるジャランダ広場に季節の花々を植栽していただきました。可憐な花が咲き並び、参拝者の目を楽しませてみます。



○社報「第七十八号」をお届けいたします。

○表紙は、御存じの方も多いと思ひますが、「亀石」です。ただし、眼下に見下ろすしかできませんので、今回は亀石の側から二柱岩を望む写真を掲載しました。

○御田植祭を三月二十二日に斎行しました。日南市は日本一早い超早場の産地です。収穫は七月中旬を予定してをります。

○向暑のみぎり、鵜戸大神様のご神徳をいただかれ、ご健勝にお過ごし祈念します。

(中原)



編集後記